

第3回久留米市市民センター多目的棟指定管理者候補者選定委員会会議録

- 日 時：令和6年10月8日（火） 13時40分～15時20分
- 場 所：久留米市庁舎3階 301会議室
- 出席委員：福澤朋子委員、深山和義委員、神代英子委員、古賀裕二委員
- 欠席委員：佐藤小枝子委員
- 開催形態：非公開

- 1 開会
- 2 プレゼンテーション審査の事前説明等

(1) 採点方法、選定要領の審議

【事務局】

採点方法の説明と委員1名欠席による選定要領追加(案)の説明。

【委員長】

選定要領追加については、事務局案でよろしいか。

【全委員】

異議なし

(2) 時間配分 (3) 質問内容

【事務局】

時間配分の説明と委員1名欠席による質問分担変更の説明。

【委員長】

事務局案でよろしいか。

【全委員】

異議なし

3 プレゼンテーション審査

書類審査を通過した1団体について、提出書類についての趣旨説明を聴取し、委員による質疑応答を行った。その概要は以下のとおりである。

【委員】

今回の応募の理由と団体の強みは。

【団体】

応募した理由は、この5年間、自主事業や利用者のイベントを実施し、市民活動のプラットフォームを目指してきたが、継続していくことで、もっとよい多目的棟となるのではないかと、引き続きやりたいというのがまず第一。それから、財団には社会教育士の資格を持った職員がいる。これは地域活動の活性化や学習活動、事業等を計画する資格である。財団はえーるピア久留米の指定管理者もしており、そういったノウハウを多目的棟でも発揮できれば、財団にとって非常によい影響を及ぼす。

強みはまず、5年間やってきたので、利用者の声を聞き、望みや悩みを反映した細かいサービスが提供できる点。今回新たなサービスを5点ほど提案したのはアンケートの中から多かった部分。もう1点の強みは、自主事業。非常に充実した内容で、各世代に向けたいろいろな事業を提供できていると思っている。

【委員】

地域への文化的、経済的な貢献のための取り組みは。

【団体】

地域経済の活性化については継続して提案している。今回間接的ではあるが、新たに児童センターとの共催事業の中で、子どもたちが地域産業について学ぶような事業も提案している。

【委員】

貴団体が指定管理者になった場合の利用者、利用団体にとってのメリットは。

【団体】

利用者の声をサービスとして実現化できるところが非常にメリットになる。特に冷暖房料金は長年、アンケートの中で高いと言われていた。今回、半額という提案をした点は、非常に利用者にとってはメリットとなる。

【委員】

自主事業をふまえた、利用者拡大のための具体策は。

【団体】

今回、自主事業を見直す中で、シニア層の利用に加え、図書室利用やファミリー層が増えれば、全体の利用者が増えると考え、児童センターとの共催事業を計画した。さらに、文化祭等のイベントで参加団体を増やすための広報、PRを充実することで新しい人も利用できるような仕掛けをしていきたい。

【委員】

イベント時、耳納は筑邦と比較すれば、ステージが常設されておらず厳しい状況かどうか。

【団体】

耳納はステージ設営が非常に大変だが、そこは一生懸命お客様が利用できるように努力していきたい。

【委員】

今春のスマートフォンやパソコンでの確定申告は、自分で対応できないシニアの方が税務署に大勢来所されている状況だった。シニアのパソコン、スマートフォン教室の強化はされないのか。

【団体】

アンケートでは、パソコンとスマートフォンを覚えたいシニア層が多かった。現在はWi-Fi環境がないが、今回、導入する提案をしたので、年間を通じてシニアパソコンとスマートフォン教室はやりたい。

【委員】

労務管理についてどのように考えているか。

【団体】

財団では、産業医や衛生管理者を通じた取り組みの中で、メンタル、社会的問題に対し、ストレスチェックや相談窓口もあり、バックアップはできている。時間外勤務への取り組みも財団全体で対応しており、多目的棟ではそのような問題は発生していない。

【委員】

有給休暇や会議、研修時の代替対応、病気など突発的な欠勤への対応は十分か。

【団体】

現在、産休中の職員もいる。短期間ならローテーション、パート職員配置でのカバー、長期になる場合は臨時的な雇用で対応する。

【委員】

新たなサービス提案である夏季冷房料金半額の課題、収入減に対する補填、工夫は。

【団体】

冷房料金半額サービスに関しては、過去2年間の実績で計算した結果、20万円前後の収入減を見込んでいる。今回、指定管理料限度額を確認し、職員配置、人件費の見直しもしたところ、十分対応できると考えた。過去5年間の実績では、コロナで収入がない時期や電気料の高騰等で支出が増える中、工夫して支出を減らした。執務室の冷房なども必要最小限にしてきたので、今後も改めて予算を組みなおす中で対応できると判断し提案した。

【委員】

冷房料金半額サービスに関して、収支面以外の課題はないか。

【団体】

長いスパンで見ると、利用されている方はシニア層が多く、固定している。そのような活動がもし、下火になってきた場合に、収入の確保ができるのかという不安は課題としてある。今後5年間は、今利用されている定期利用者の活動をきちんとサポートすることと新しい利用者の確保をうまくバランスを取りながら運営できればと思う。

【委員】

事業計画において、重視・工夫された点は。

【団体】

大きく2点ある。1点目は利用者の声を反映した新サービスの提案。この5年間で、なかなか実行できなかった部分もあったので、今回、計画を出す段階で重視した。2点目は自主事業に力を入れており、得意分野であるので、いろんな世代の方が参加できるような事業を充実、連携強化し、質を上げたところである。

【委員】

多目的棟の管理運営にあたり、特に重要と考えていることは。

【団体】

多目的棟が開館したのは市町村合併前の平成11年、13年。当時、筑邦は市内の一番南の施設、耳納が一番東の施設で、管理運営が難しいところに建てられたと思う。当時図書館も3館程度しかない状況の中で、地域の拠点施設と位置付けられていたと認識している。市町村合併後、現在、図書施設は市内で10か所、体育館も市内に点在する中で、どう多目的棟が存在感をだすかというのが課題である。5年間の実績の中で、何が重要かという点においては、改めて地域の方々にとってなくてはならない施設であるべきだと考えている。10館の内の2館となる図書施設については、存在感を出すのは難しいところもあるが、実験的に取り組んでいる

事業もあるので、他と調和をとりながら独自性も出せる。今回、図書に関しても自主事業を計画している。改めて、市内に施設がたくさんある中で、地域の方に親しまれる施設であるところが非常に大事だと考えているので、今利用されている方々の活動を最大限サポートして活性化することと、新しい利用者にもまめにアピールしながら取り組み、地域になくてはならない施設にしたいと思う。

4 指定管理者候補者（優先交渉権者）の決定

各委員から採点表を回収し、事務局で集計した結果について確認し、意見交換。

【委員長】

審査の結果、最低基準点を超えていることを確認し、公益財団法人久留米市生きがい健康づくり財団を指定管理候補者として選定することによろしいか。

【全委員】

異議なし

なお、決定にあたって、以下のような講評を行った。

- ・多目的棟の特性、特徴をうまく掴んでいる。
- ・施設の状況をきちんと分析しており、まず、地域の人たちに利用していただくことを意識している。
- ・現在の状況をよくふまえ、新たな提案がなされている。

5 今後のスケジュール

今後の予定について事務局から説明。

6 その他

なし

7 閉 会